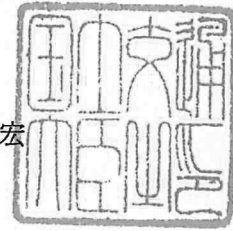


認 定 書

国住指第 4420 号
平成 27 年 3 月 26 日

積水化学工業株式会社
代表取締役社長 根岸 修史 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PS060WL-0802

2. 認定をした構造方法等の名称

ケーブル／黒鉛含有ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス・水酸化アルミニウム入ポリブテン系樹脂充てん／壁準耐火構造／貫通部分

3. 認定をした構造方法等の内容

別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

ケーブル／黒鉛含有ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス・水酸化アルミニウム入ポリブテン系樹脂充てん／壁準耐火構造／貫通部分

2. 寸法等の仕様：

寸法等の仕様を表1に示す。

表1 寸法等の仕様

項 目		仕 様	
開口部	開口A (アウトレットボックス側)	形状	矩形
		面積	0.01343m ² 以下(146×92mm以下)
	開口B	形状	円形
		面積	0.0095m ² 以下(φ110mm以下)
占積率 (アウトレットボックス貫通孔の面積に対する ケーブル断面積の総合計の割合)		38.1%以下	
貫通する壁の構造等		建築基準法施行令第115条の2の2第1項第一号の規定に基づく準耐火構造(60分)(ただし両面強化せっこうボード重張に限る)又は建築基準法第2条第七号の規定に基づく耐火構造(60分)厚さ100mm以上	

3. 主構成材料の仕様 :

主構成材料の仕様を表2に、ケーブルの仕様を表3に示す。

表2 主構成材料の仕様

項目		仕様	
熱膨張性 シート1		材料	黒鉛含有ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス
		設置箇所	ケーブル被覆用(開口B側) ケーブル複数本まとめて巻付け
		寸法	製品厚さ: 2.09mm以上 幅: 50mm以上
	基材	材料	アルミニウムはく張ガラスクロス
		厚さ	0.09~0.25mm
	シート	材料	黒鉛含有ブチルゴム
		厚さ	2.0mm以上
組成 (質量%)	組成は企業秘密とさせていただきます		
熱膨張性 シート2		材料	黒鉛含有ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス
		設置箇所	開口部被覆用(開口B側)
		寸法	製品厚さ: 1.09mm以上 幅(縦及び横): 開口径+40mm以上(開口の端から20mm以上)
	基材	材料	アルミニウムはく張ガラスクロス
		厚さ	0.09~0.25mm
	シート	材料	黒鉛含有ブチルゴム
		厚さ	1.0mm以上
組成 (質量%)	組成は企業秘密とさせていただきます		
充てん材	材料	水酸化アルミニウム入ポリブテン系樹脂	
	設置箇所	開口A側 アウトレットボックス貫通孔の閉塞用(あり又はなし) 開口B側 開口内埋戻し用	
	組成 (質量%)	セキスイ耐火パテ (NCJM001) 組成は企業秘密とさせていただきます	
	使用量	開口A側(ありの場合) 密に充てん 開口B側 密に充てん(厚さ25mm以上)	
アウトレットボックス (図7参照)	材料	熱間圧延軟鋼板(JIS G 3131)又は冷間圧延鋼板(JIS G 3141)	
	寸法	大きさ: 182(±4)×117(±4)×44(±4)mm以下(1~3孔仕様) 厚さ: 1.6mm以上	

表3 ケーブルの仕様

項目	仕様				
ケーブル (電線)	導体(又は芯線)	1本あたり	22mm ² 以下		
	の断面積	総合計	46.9mm ² 以下(銅等の金属類)		
	総有機量	0.37kg/m以下			
	導体(又は芯線)の種類	銅、ガラス繊維、その他これらに類する不燃性の材質			
	絶縁体	ポリエチレン系	厚さ	1.9mm以下	
		塩化ビニル系			
		ポリオレフィン系			
		ゴム系			
	介在(円形に調整する充てん材)	紙、ジュート、又はポリプロピレン			
	シース	ポリエチレン系	厚さ	1.5mm以下	
塩化ビニル系					
ポリオレフィン系					
ゴム系					

4. 副構成材料の仕様：

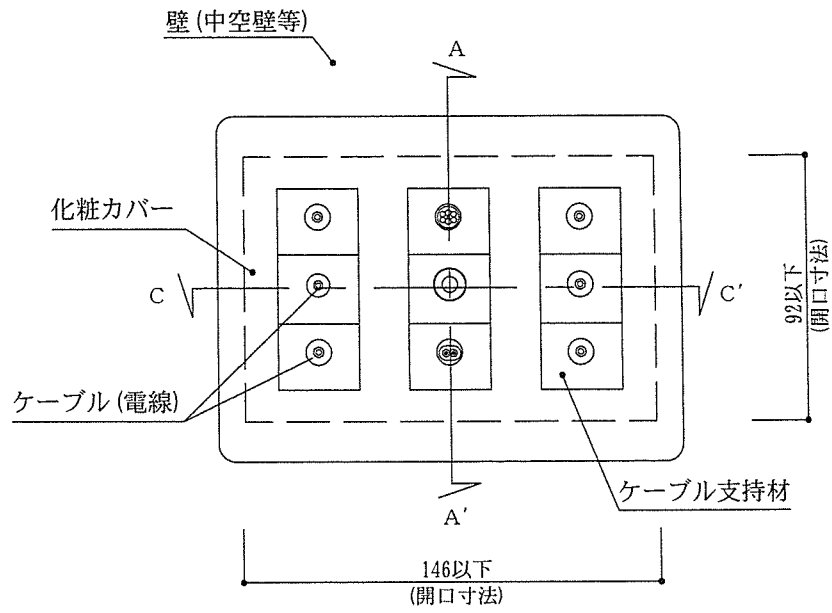
副構成材料の仕様を表4に示す。

表4 副構成材料の仕様

項目	仕様	
塗代カバー	材料	熱間圧延鋼板又は冷間圧延鋼板
	寸法	大きさ：185(±4)×120(±4)mm以下(ケーブル支持材取付枠1個用～3個用) 厚さ：1.6mm以上
ケーブル支持材	材料	ABS系樹脂
	寸法	44×23mm以下
	個数	9個以下(ケーブル支持材取付枠1個あたり3個以下)
ケーブル支持材取付枠	材料	熱間圧延鋼板又は冷間圧延鋼板
	厚さ	1.4mm以上
	個数	3個以下
化粧カバー	材料	①又は② ①ABS系樹脂 ②ステンレス鋼
	寸法	大きさ：162×120mm以下(ケーブル支持材取付枠1個用～3個用) 厚さ：2.0mm以下
ボックス固定金具	材料	熱間圧延鋼板又は冷間圧延鋼板
	厚さ	0.8mm以上
留付材	材料	①～④：ねじ、⑤：ステーブル又はねじ 材質：鋼製
	用途	①アウトレットボックス留付用 ②ケーブル支持材取付枠留付用 ③塗代カバー留付用 ④化粧カバー留付用 ⑤熱膨張性シート2留付用
	寸法	①φ3.8×長さ8mm以上 ②φ3.8×長さ50mm以上 ③φ3.8×長さ10mm以上 ④φ3.3×長さ5mm以上 ⑤幅10×長さ10mm以上又はφ2.1×長さ10mm以上
遮音材	材料	あり(①、②又は③)又はなし ①不燃材料(平成12年建設省告示第1400号) ②黒鉛含有ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス(国土交通大臣認定不燃材料：NM-0057) ③ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス ブチルゴムシートの組成(質量%)： 組成は企業秘密とさせていただきます 厚さ3.3mm以下
	用途	1)アウトレットボックス背面側に使用(アウトレットボックスねじ孔等の閉塞材を兼ねる) 2)壁(躯体)と塗代カバー部の間に使用
補助材	材料	あり(①、②又は③)又はなし ①不燃材料(平成12年建設省告示第1400号) ②黒鉛含有ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス(国土交通大臣認定不燃材料：NM-0057) ③ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス(遮音材③と同じ)
	用途	アウトレットボックスねじ孔等の閉塞材

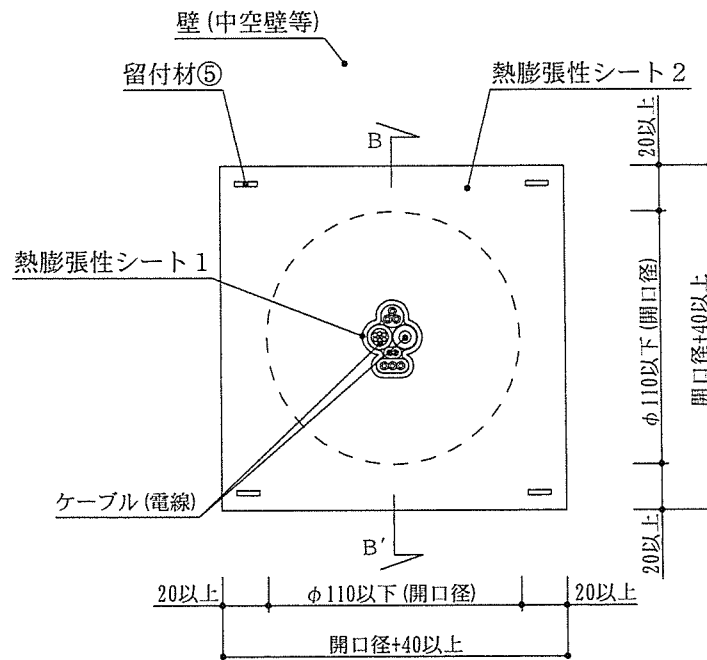
5. 構造説明図：

構造説明図を図1～図7に示す。



開口A正面図

(アウトレットボックス正面側)



開口B正面図

(ケーブル貫通部側)

図3 構造説明図

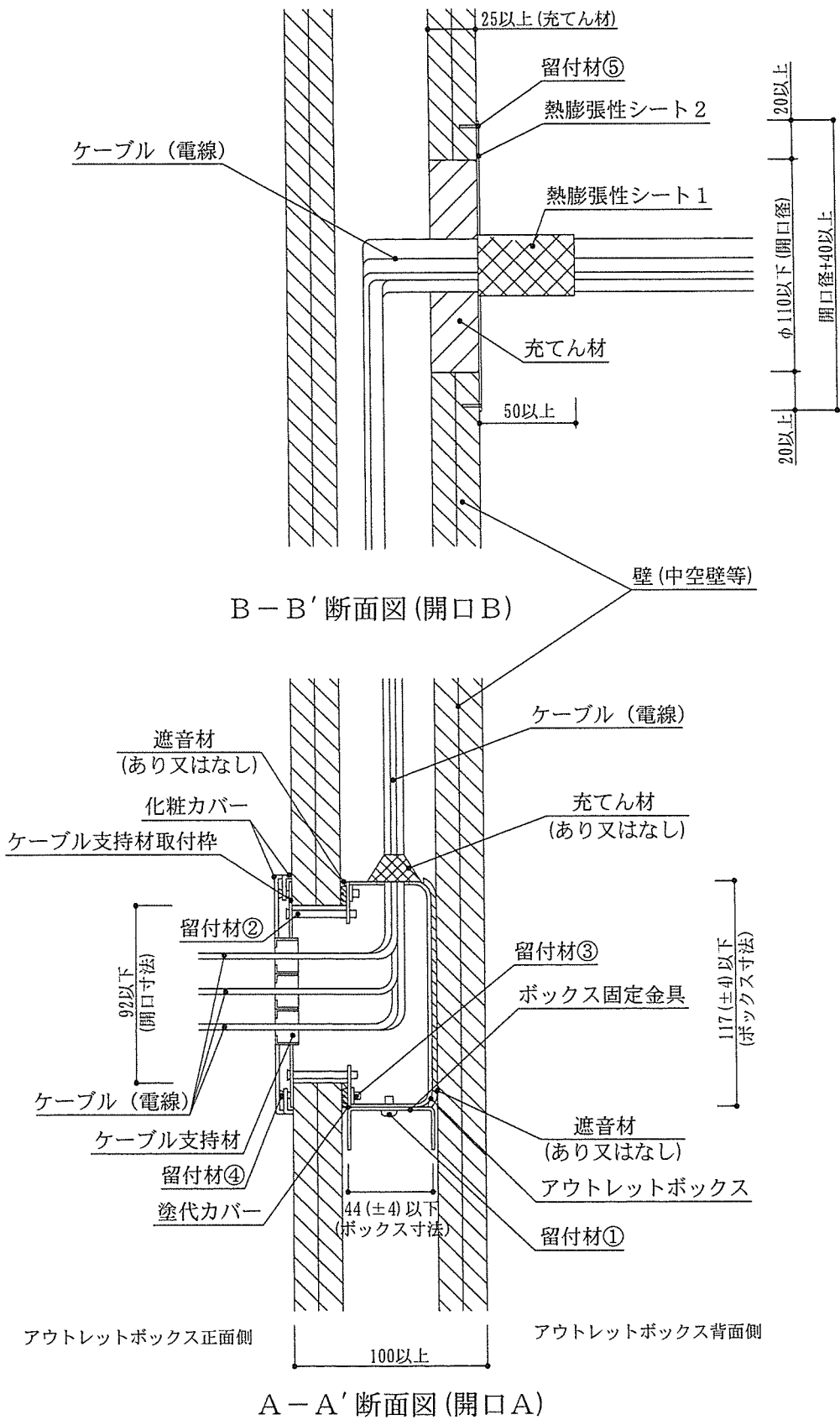
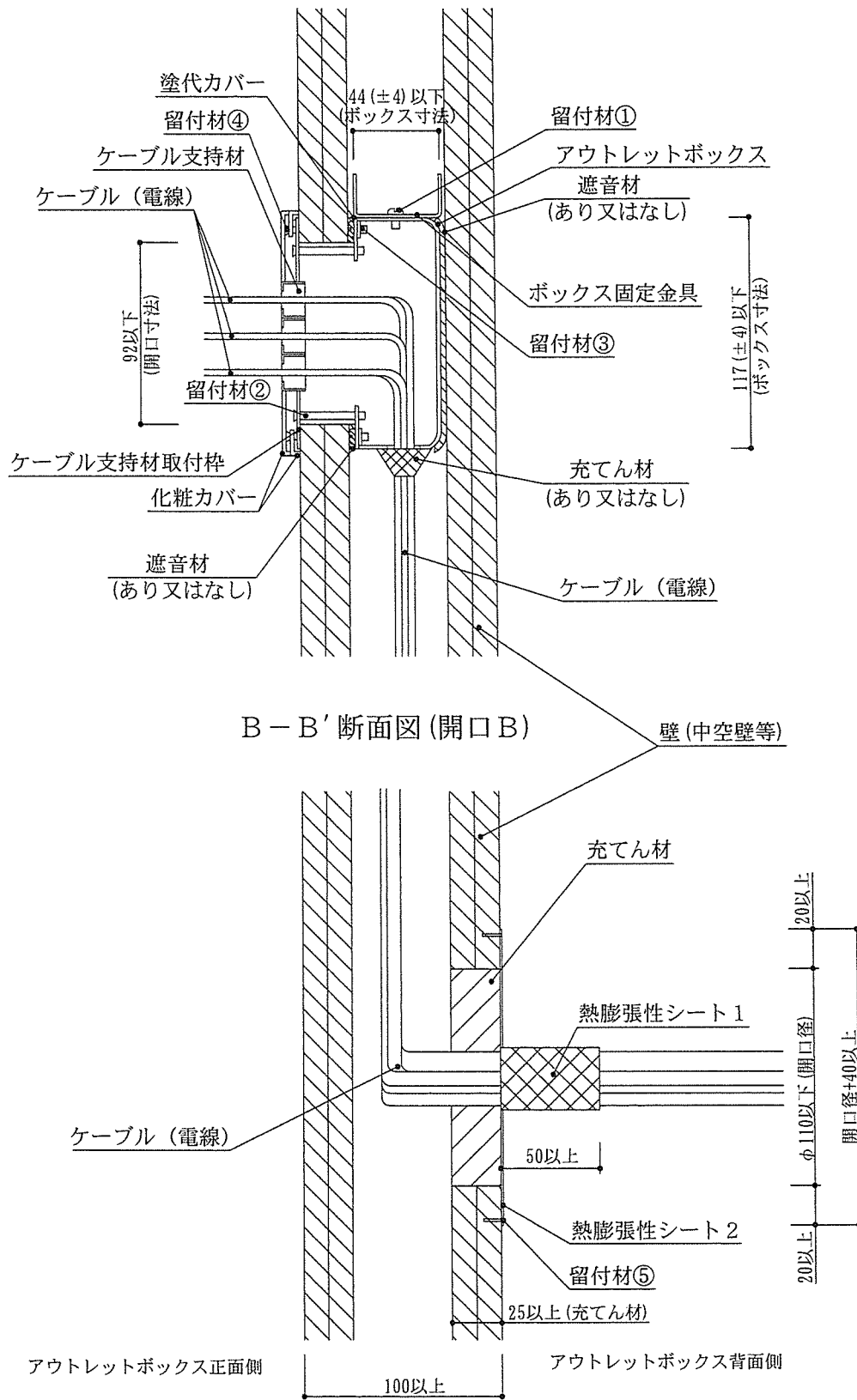


図4 構造説明図



B - B' 断面図 (開口 B)

B - B' 断面図 (開口 B)

アウトレットボックスの下部に貫通部材を設置

図5 構造説明図

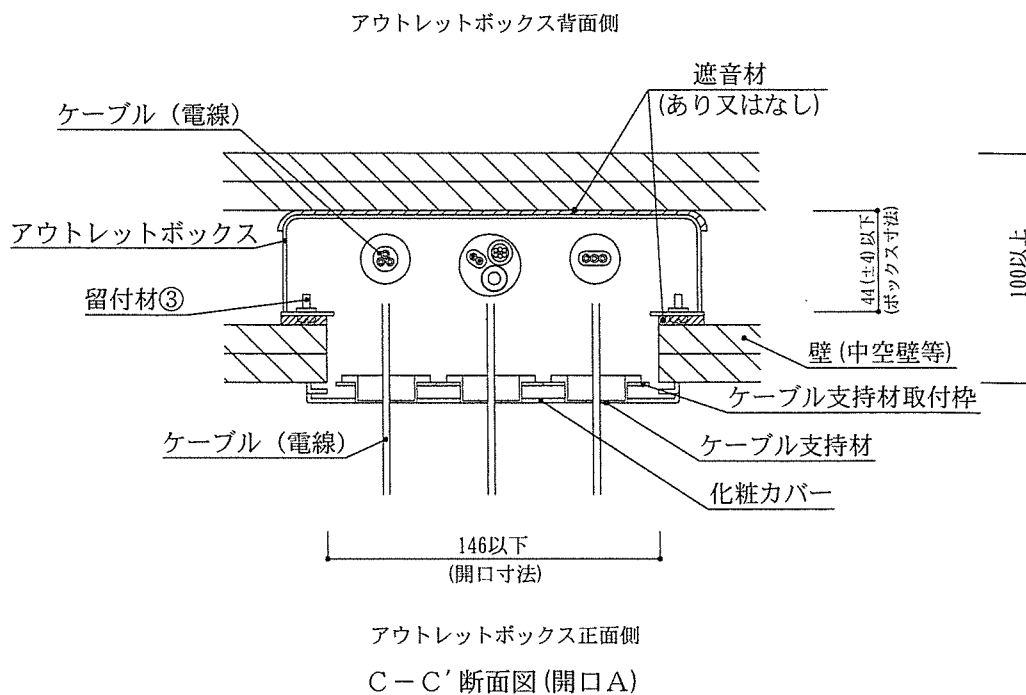
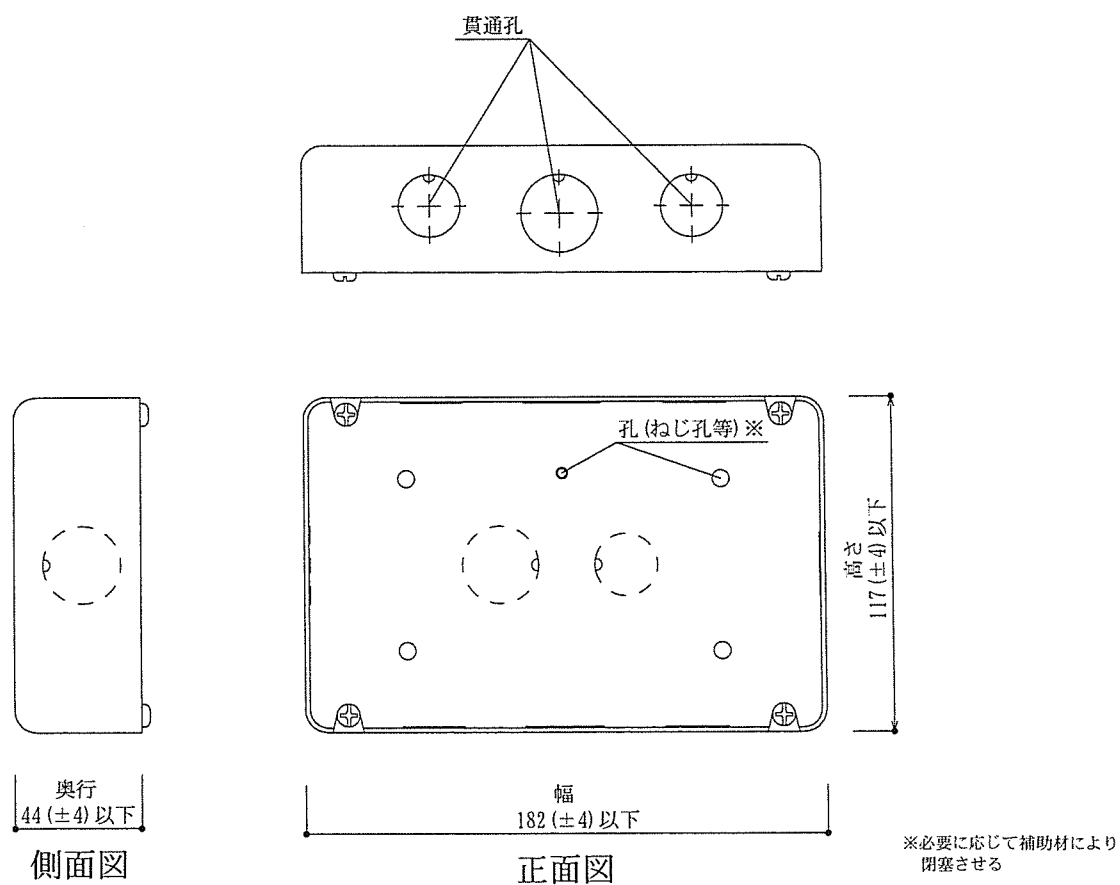


図6 構造説明図



アウトレットボックスの詳細図 (3孔用の一例)

図7 構造説明図

6. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

- (1) 壁下地材にボックス固定金具を取付ける。
- (2) アウトレットボックスを、ボックス固定金具の上・下部又は前面に取付け、塗代カバー等を施工する。
- (3) せっこうボードに貫通部(開口B、開口A)として適合する穴を開けるとともに、スタッドに張付ける。
- (4) ケーブル(電線)を通線する。
- (5) 貫通部(開口B)の隙間を充てん材で密に充てんする。また必要に応じて、貫通部(開口A)のアウトレットボックス貫通孔を充てん材で充てんする。
- (6) 貫通部(開口B)のケーブル(電線)に熱膨張性シート1を巻付ける。熱膨張性シート1は巻物のまま直接ケーブル(電線)に巻付けてもよいし、所定の長さに予め裁断したものを巻付けてもよい。また、熱膨張性シート1の巻付け初端と終端は隙間なく必ず接するように巻付ける(オーバーラップ可)。
- (7) 熱膨張性シート2をケーブル(電線)に合わせて切り欠き設置し、ステーブル又はねじで留める。(熱膨張性シート2は、開口の端から20mm以上を覆うよう、開口径+計40mm以上の大きさとする。)
- (8) 塗代カバーに取付枠を取り付け、仕上げ工事を行う。

*注意事項：

本工法による貫通部を複数近接して配置する場合、各開口が背中合わせとなる状態を避ける等、隣り合う貫通部相互の位置関係に配慮すること。